

夢で始まり 情熱を結集し こころ豊かな社会を創る

事業内容

SOHLAは小型人工衛星の開発を目指して設立した、製造業の協同組合です。

現在、参加企業は東大阪だけにとどまらず、関西圏内に拡大しています。

日本が不況のどん底であった2002年に組合が発足し、人工衛星プロジェクトがスタート、翌年には新エネルギー産業総合開発機構(NEDO)より委託事業を受け、2009年に“まいど1号”が種子島宇宙センターから打ち上げられました。

計画したすべてのミッションが成功裡に終わり、今では宇宙機器の開発受注に結びつく成果も芽生えてきます。厳しかった山登りも時がたつとまた登りたくなると、新たに宇宙へのプロジェクトが動き出しています。“日本のお家芸”である「ロボット技術」で中小企業のものづくりの技を世界にアピールするため、SOHLAは世界初の人型宇宙ロボットに挑戦していきます。



人工衛星まいど1号が2009年1月23日 種子島宇宙センターより打ち上げられました。



新たな夢は人型宇宙ロボット

会社名 宇宙開発協同組合 SOHLA
設立 2002年12月
資本金 1,600,000円
代表者 杵本 日出夫

事業品目
・宇宙産業用機器及び同部品の共同受注、共同開発
・共同宣伝事業
・組合事業に関する教育及び情報の提供
・講演活動



宇宙開発協同組合 SOHLA

TEL.06-6747-8081 FAX.06-6747-8095

〒577-0011大阪府東大阪市荒本北1-4-17 クリエイション・コア東大阪

